

演題番号：8

演題名：採卵鶏で確認された急性細網細胞腫（細網内皮症）

発表者名：○小田英治、阿左美有右、小原海和、嘉数浩

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

急性細網細胞腫は腫瘍原性レトロウイルスである細網内皮症ウイルス(以下、REV)に起因する症候群・細網内皮症(以下、RE)に含まれる腫瘍性疾患である。本腫瘍はマレック病や鶏白血病等と同じく白血病の病態をとるため、これらの鑑別は食鳥検査上、重要と思われる。REVは鶏群に広く存在しているといわれているが、実際に野外鶏でのREの発生報告は少ない。今回、当所管内食鳥処理場に搬入処理された採卵鶏1羽について病理組織学的検査を実施したところ、急性細網細胞腫と診断されたので報告する。

2. 材料及び方法

平成26年9月10日に当所管内食鳥処理場に搬入され、肉眼的に肝臓の腫大や退色が著しくマレック病や鶏白血病が疑われた採卵鶏(ボリスブラウン、602日齢)1羽の心、肝、脾、肺及び大腿骨を材料とし、各組織を10倍希釈ホルマリン液で固定(さらに骨は5%ギ酸にて脱灰)、定法により組織標本作製し、病理組織学的検査を実施した。またリンパ球性腫瘍との鑑別のため、抗CD3、Bu-1抗体を用いたヒストファイン・シンプルステイン法による免疫染色を実施した。さらに-80℃で凍結保存した大腿骨骨髓よりプロウイルスDNAを抽出し、PCR法によるREV特異遺伝子(LTR領域)の検出を試みた。

3. 結果

肝臓では類洞を埋め尽くすように細網細胞様の大型円形腫瘍細胞が増殖していた。大腿骨骨髓の洞様血管周囲や脾臓実質各所でも同様の細胞が多巣状に増殖していた。また各臓器の血管内に同様の細胞が多数出現していた。腫瘍細胞の核は淡明な大型円形～類円形、一部は多核で、1～2個の明瞭な大型核小体を有しており、核分裂像が多数見出された。細胞質は広く弱好塩基性で、顆粒構造等は有していなかった。免疫染色では腫瘍細胞は抗CD3、Bu-1抗体に陰性であった。PCR法ではREV特異遺伝子と同サイズ(約200bp)の遺伝子の増幅が認められた。

4. 考察及びまとめ

本例は病理組織学的に細網細胞様細胞の全身性増殖からなり、免疫染色でリンパ球性が否定されたことやPCR法でREV特異遺伝子が検出されたことから、急性細網細胞腫と診断された。発生頻度の高いマレック病や当所管内で散発している骨髓球腫症(骨髓性白血病)等と今回の組織病変は明らかに異なっていたが、これらの肉眼病変は類似しているため、食鳥検査現場での鑑別の際には注意すべきである。また実験的にREV感染によって慢性リンパ腫等の多様な病変が誘発されるとの報告があることから、REの確実な診断にはウイルス学的検査も必要であろう。ウイルス性疾患は予期せぬ病原性の変異や流行を起こすため、十分な知識と診断技術を備えておくべきと思われる。